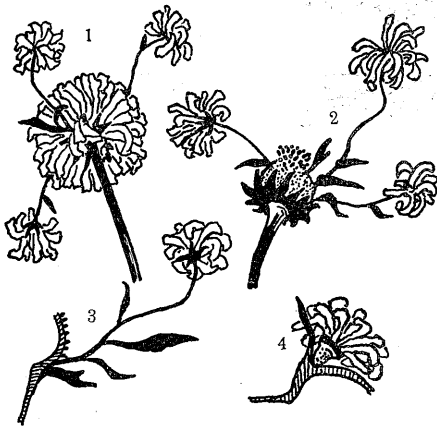
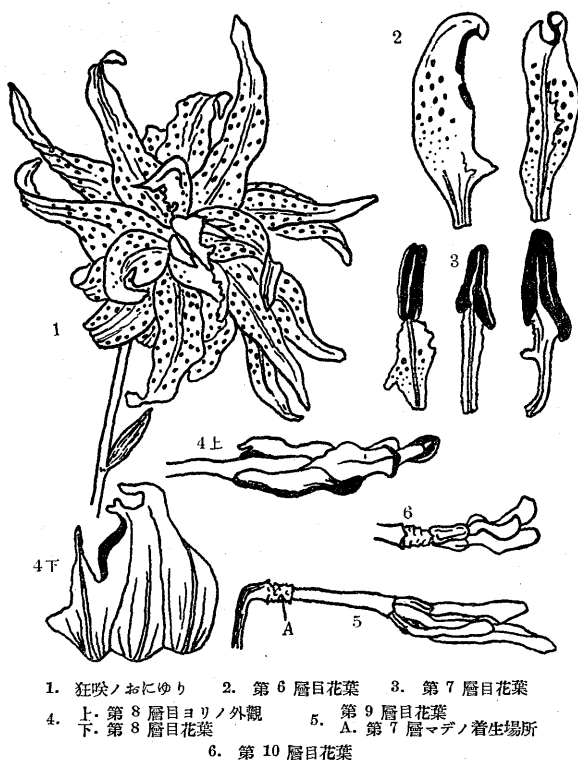
Fig. 11.　北部地方ノ典型的地勢（著者撮影）

○ひなぎくノ複花トおにゆりノ狂咲

ひなぎく（*Belis perensis*）ノ複花ニ就テハ既ニ三好博士ガ最新植物學中卷第四章植物ノ畸態ノ所デ「菊科植物ノ頭狀花ノ花托ガ圓錐形トナリ數個ノ有柄頭狀花ヲ着ク」ト述ベラレ「西村眞夫氏寄贈ノ標本ニ依ル」ト寫圖ガ出テキルガ小生ノ見タモノハ次ノ圖ノ如クヤヽ其ノ趣ヲ異ニシテ母頭狀花ヨリ生ズル子頭狀花ハ長柄或ヒハ無柄ノ狂咲狀ノモノデ中心部ニ筒狀花ナク有柄ノモノハ 1—3 枚位ノ小葉ヲ着ケテキル、子頭狀花ハ母花ノ花托或ヒハ總苞間ヨリ生ジ其ノ遺傳性ニ就テハ目下調査中デアルガ多數ノ該花株ヲ見タルコトヨリ恐ラク遺傳性ヲ有スルモノト思ハレル斯ル象現ハ花ノ由來ヲ物語ルモノヽヤウニ考ヘラレル。

ひなぎく（*Belis perensis*）ノ複花
1. 該花ヲ裏面ヨリ見タモノ　2. 子頭狀花ノ着生ノ様子
3. 2 ニ同ジ．4. 無柄ノ子頭狀花

おにゆりノ狂咲

おにゆり（*Lilium tigrinum*）ハ觀賞用食用トシテ可成リ廣ク栽培サレテキルガ他ノ觀賞用植物ニ比較スルト殆ド人ノ手ガ加ヘラレナイデ野生ノマヽノ感ジヲ與ヘテキル。茲ニ

1. 狂咲ノおにゆり　2. 第 6 層目花葉　3. 第 7 層目花葉
4. 上. 第 8 層目ヨリノ外觀　下. 第 8 層目花葉　5. 第 9 層目花葉　A. 第 7 層マデノ着生場所
6. 第 10 層目花葉

紹介スル狂咲ノおにゆりハサウ云フ點カラ考ヘテ面白イモノデハナカラウカ。該花ハ本校々庭ニ栽培シタ4株ノ中ノ1株ニ生ズルモノデ該株ノ花ハ何レモ形ニ於テ多少ノ相違ハアルガ殆ドソノ變化ニ於テハ相同ジデ全花葉ノ數ハ何レモ 30 枚ヲ有シ1層ハ3枚宛デ10層ヨリ成リ其ノウチ外側ノ 5 層ハ形色共ニ花蓋狀デアルガ第6層目ノモノハ葯ヲ有スル花蓋様ノモノデ第7層目ハ第6層目ノモノト雄蕋トノ中間性ノモノガ多イ。第8層目ノモノハ3枚互ニ癒着シ第9第10層ト共ニ其ノ着生場所ヲ異ニシテヰルガヤハリ葯ノ痕跡ヲ有スルモノアリ、第9第10層ハ癒着シナイデ離生シ第9層目ノ 3 枚ニハ葯ハ認メラレヌ。第10層ハ雌蕋ノ變化シタモノデ小サイ子房ノモノヲ附ケテヰル。

思フニ該花ハ花冠ノ重複トナルアラユル場合方法ヲ現出シタモノデ多數ノモノヲ調ベテ見ルト花葉ノ畸形ハ花ノ中心ノモノホド著シク現ハレルコトモ分ル。尙ホ花葉ノ配列ハ普通ノモノニ同ジデアル。

花冠ノ重複トナル場合ニ就イテハ三好博士著最新植物學中卷 423 頁ヲ參照セラレタイ。

（富山縣女子師範學校　妹尾義一）

○逗子ノ萩、籠坂ノ萩

逗子ノ山ニきはぎトモまるばはぎトモツカナイ萩ガアル。ソレハ丁度きはぎトまるばはぎトノ間ノヤウナ形ヲシタ萩デアル。一體逗子ヤ鎌倉ノ山ニハきはぎトまるばはぎトハ澤山アルガ外ノ萩ハ絕エテ見ナイノデアル。ソシテソノきはぎトまるばはぎトガ到ル處ニ混生シテヰル。サウイフきはぎトまるばはぎトノ混生シテヰルヤウナ藪ノ中ニコノ萩ガ見出サレル。デアルカラ牧野先生ハコノ萩ヲきはぎトまるばはぎトノ間種デアラウトイハレタコトガアツタ。コノ萩ハ逗子ノ山ノ一部ニヤヤ廣イ範圍ニ亙ツテ點生シテヰルガ八九月ノ